# 学域横断的プロジェクト入門《2024》

#6 グループワーク5: リサーチプロポーザル3

苅谷 千尋・田中 千晶・中野 正俊

Wed, 24, Jul, 2024

### 1.前回の振り返り

• 前回の「授業の感想」(別紙参照)

### Ⅱ. キーワードとタイトル(日本語)

### 1. キーワード

- ・文字通り、論文を解く鍵となる言葉
- 通常、3-5 words
- キーワードになりうるもの
  - 。 重要な概念;方法(どのように見るか);視点(どこから見るか);対象(地域や事例)
- できるだけ重複しないキーワードを選ぶ
  - 。 類似の語彙を並べると、論文が「平板化」する
    - 例:少子化;人口減少=ほぼ意味が同じ
- (他の論文との)差別化を図れるキーワードを選ぶ

# <u>2. タイトル</u>

- ・選択した3-5のキーワードをうまく組み合わせ、読者に魅力的な、なおかつ、内容がよくわかるタイトルをつくる
- 本タイトルだけでなく、サブタイトルを工夫する
  - 本タイトル:抽象度が高い
  - サブタイトル:具体的
  - タイトルとサブタイトルの間は、二倍ダッシュ (---) もしくは、コロン (:)

**Warning** ∼ (波線; 波ダッシュ) は使わない

#### (1) 良い例

- 伊藤修一郎「自治体発の政策革新: 景観条例から景観法へ」
- 伊藤正次「人口減少社会の自治体間連携:三大都市圏への展開に向けて」
- 河野勝「国際貢献としての環境外交:グリーン・エイド・プランの国内政策過程 |
- 林嶺那「東京都における人事管理の研究:稲継モデルを手掛かりとして」
- 牧原出「政策としての「コミュニティ」支援: 『仙台市コミュニティビジョン』を素材に」

#### (2) 悪い例

- 現代日本の少子高齢化の現状と課題
- 仮想通貨とは何か
  - → キーワードが一つしかない(少子高齢化;仮想通貨)
    - 現状と課題は、キーワードではない
    - 疑問文のタイトルもOKだが、サブタイトルを具体的なものにすること

■ → 漠然としていて、論文を読むまで何が書いてあるのかわからない(推測さえできない)

### Ⅲ. キーワードとタイトル(英語)

## <u>1. キーワード</u>

- 和英辞書を引くだけでは専門用語にたどり着けない可能性がある
  - 。 Google Scholar (https://scholar.google.com) などを使い、海外で実際に専門用語として、使用されているかどうかを確かめること

### 2. タイトル

- 直訳しない=意訳してもよい
  - キーワードをもとに、新たに考えた方がいい(英語らしいタイトルを付けられる)
- 英語のタイトル
  - 1. 基本的に単語を並べただけの簡素なものが多い
    - 10から20 words程度
    - キーワードの並列
      - 例: AB, and C
    - キーワードを前置詞でつなぐ
      - A on B for C
        - 日本語の「の」は英語では機能的に言い換えられることがあるので、ofの 多様には注意すること
  - 2. 疑問文(疑問詞)を使ったタイトル
    - 使ってもよい
      - 例: What Went Wrong and Why?: Nationalism versus Democracy in Eastern and Western Europe
      - 例: How to Hide an Empire: A Short History of the Greater United States
  - 3. 動名詞から始まるタイトル
    - 使ってもよい
      - 例: Taming the Leviathan: The Reception of the Political and Religious Ideas of Thomas Hobbes in England, 1640-1700
  - 4. 関係代名詞を使ったタイトル
    - あまり一般的ではないが、使ってもよい
    - 前置詞や分詞を使う方が多い
- 英語タイトルの表記
  - タイトルとサブタイトルは: (コロン) でわける
    - ハイフンは使わない
  - 。 各単語の頭文字は大文字にする(上の例を参照して下さい)
    - ただし、前置詞は小文字にする

### 3. 日本語特有の概念の英訳

- ローマ字表記と英訳を併記すること
- 直訳では意味が通じない概念があるの注意すること
  - 。 あくまで英語として(海外の人に)わかってもらえることが大切です!

- 。 例:地方創生
  - local creation?
  - 政府の公式: the Promotion of Overcoming Population Decline and Vitalizing Local Economy in Japan
  - インターネットサイト: regional revitalization
    - 地域活性化と地方創生を差別化できないという問題をはらむ
      - 人口減少問題への対応策というニュアンスが出せない(日本語にも出て はいないが・・・)
- 和英辞書よりはインターネットの方がいい英訳が出てくることが多い

### Ⅳ. 学術英語

- 1. 学術英語: フレーズバンク
- (1) Academic Phrasebank (University of Manchester)
  - リンク
- (2) Academic Phrasebankの日本語訳あり
  - ジョン・モーリー (2022) 『アカデミック・フレーズバンク: そのまま使える! 構文200・文例 1900』, 講談社.

# 2. 自然な英文表現

#### (1)著者を主語とする文章を混ぜる

- This research will examine...
- This paper seeks to explain…
- The authors find…
- ※ 日本語も「この研究が検証しようとするのは」とした方が読みやすい(主語と実質的な述語を近づける)

### (2)無生物主語の方が自然な表現

〔原文〕 Cheap vaccines could prevent millions of deaths from cervical cancer

[直訳] 安価なワクチンが、子宮頸がんによる数百万人の死亡を防げるかもしれない

〔**通常の訳**〕安価なワクチンによって、子宮頸がんによる数百万人の死亡を防げられるかも しれない

• 出典: The Economist, Cheap vaccines could prevent millions of deaths from cervical cancer

#### (3)挿入句を入れた方が自然な表現

• カンマやダッシュ (関係代名詞も可)

〔原文〕But in 2020, 14 years after the advent of a jab that prevents almost all cases, cervical cancer still killed 342,000 women.

〔**直訳**〕しかし、2020年――子宮頸がんのほとんどを予防できる予防接種が登場して14年後にあたる――においても、子宮頸がんは依然、34万2000人もの助成を殺している。

〔**通常の訳**〕子宮頸がんをほとんどを予防できる予防接種が登場して14年後の2020年においても、その死者は依然、34万2000人に上る。

• 出典: The Economist, Cheap vaccines could prevent millions of deaths from cervical cancer

## (4)能動態の方が自然な表現

• 特に研究では、受動態は主体が不明瞭になる、持って回った表現になるなどの理由で、抑制的 に使うことが推奨されている

## 3. 英文アブストラクト

### Natureのアブストラクトを例に

• 出典: Nature投稿案内

# V. グループワーク

- あらためて、キーワードを考え、次いで、タイトルを考えてみよう
- ドラフトが返却された場合は、フィードバックコメントとともに、ルーブリックにも注意して下 さい

# VI. 次回までの宿題

## 1.授業の感想

回答先と締め切り

• 回答先: Google Forms

締め切り:2024年7月28日(日)23時59分

### 2. リーディングアサインメント (予習)

クリス・アンダーソン『TED TALKS: スーパープレゼンを学ぶTED公式ガイド』(日経 BP、2016年)

- 「スルーライン」(50-68ページ)
- 1. 重要だと思った箇所、あるいは、面白いと思った箇所、疑問に思っていた点が解決した箇所などを挙げて下さい
- 2. 上記の理由を教えて下さい(150-200字程度)

#### Note | 摘出先と締め切り

• 提出先: Google Forms

締め切り:2024年7月28日(日)23時59分

### 引用文献

John Morley 「Academic phrasebank」. Available at: https://www.phrasebank.manchester.ac.uk. モーリージョン (2022) 『アカデミック・フレーズバンク:そのまま使える!構文200・文例1900』, 講談社.